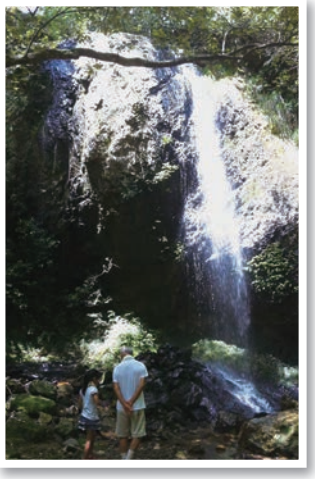
「地域が誇る観光スポット」を追加認定しました！

市では、歴史や名所、地域の伝統行事や食といった出雲の個性をより身近に感じ、愛着と誇りが持てるよう「出雲」のブランド化を進めており、その一環として、出雲の新たな魅力を再発見し、市外・県外の方にPRしていくため、「地域が誇る観光スポット」を認定しています。平成24年度には市内17か所を認定し、昨年度は9か所を新たに認定しました。

今回は追加認定された9か所を紹介します。

1 虹が滝【檜山地区】



滝のしぶきに日の光が当たって、虹がたつので虹が滝と呼ばれている。巨岩の上から二つの滝が流れ、右側の水量の多いのが男滝、左側が女滝と呼ばれ夫婦滝となっている。古くから干ばつの時にはこの滝で升を洗って雨乞いの祈祷が行われ、滝をご神体として崇め祭っていた。左にお堂があり不動明王と鬼子母神が祀られている。

2 高野寺【久多美地区】

弘法大師が天長年間（824～34）この地方を巡錫の折り、開山開基したと伝えられている古刹。かつては諸堂を備えた大きな寺であったが、天正年間（1573～91）に尼子勝久の乱逆に遭うなど、現在は奥の院のみが残る。堂跡の広庭には大師お手植えの大銀杏の木に椿の木が宿り木している珍しい光景が見られる。

3 能呂志神社【久多美地区】

延喜式神名帳に能呂志神社、出雲国風土記には乃利斯社と記載されている古社。旧社地は昔は現在地より500m南にあったが、天正6年（1578）現在地へ移転された同年の棟札が残る。野石谷地区の氏神であり、毎年11月3日の例大祭では、宮花、神代神楽、獅子舞が奉納されている。

4 久多美神社【久多美地区】

出雲国風土記に記載されている三社が起源といわれる。東郷町、上岡田町、東福町の氏神として、例年10月の第2日曜日に例大祭が行われ、7地区から獅子舞、神事華及び釼舞が奉納されている。

5 求院八幡宮・鵠神社【出西地区】

求院八幡宮は、1192年に創建して以来、求院地区の鎮守の森、ランドマークとして住民の心の支えであり、新旧住民の交流拠点として、地域に深く根付いた神社である。境内社の鵠神社は、記紀神話にある「物言わぬ皇子の物語」の伝説の地として、「求院の地名」の起源を伝える神社として知られている。

「求院八幡宮」

6 よつがねふるさと史跡【四絡地区】

弥生時代のムラから連綿と続く四絡地区に残る史跡。出雲国風土記に記載されている神社で、八野神社（矢野町）、大山神社（小山町）、大歳神社（大塚町）、比那神社（姫原）がある。寺院では、県内有数の寺社林を誇り、素晴らしく伽藍が整っている観音寺（渡橋町）がある。

「観音寺」

7 法王寺【稗原地区】

野尻町に存する天台宗の古刹。当寺が所有する三面の懸佛（かけぼとけ）は国重要文化財。また境内にあるスダジイは「出雲市の名木」となっている。

8 稗原ダム湖周辺【稗原地区】

満々と水を湛え、周辺の山々とよく調和した風景は、訪れる人たちにうるおいと安らぎを提供している。「稗原ダム湖水公園」にはベンチや東屋が設置されており、水辺の風景を楽しむことができる。

9 市森神社【稗原地区】

出雲国風土記に「加夜社」と記載されている市森神社は、少なくとも４８０年前には現在地に遷宮されたと伝えられている。広い拝殿には約２００年前に奉納された三十六歌仙の額が懸けられ、また、神社麓の園地において毎年開催される「森のコンサート」は神々しい立地条件と山肌に反響する音響効果のすばらしさで神代と現代とを融合させ、来場者を魅了している。

おたずね／観光交流推進課 ☎㉑6588

マスコットキャラクター「おろっち」

夏休みはトロッコ列車に乗りに行こう！

トロッコ列車「奥出雲おろち号」は、窓ガラスがなく、心地よい夏の風を直接感じることができる列車です。夏休み期間中（8月31日まで）は、JR木次駅から備後落合駅の間を毎日運行し、土日は出雲市駅から発車します。

トロッコ列車から眺める風景

ぜひこの機会にトロッコ列車に乗って、奥出雲の大自然を満喫してみませんか。

○きっぷの申込：JRの主なみどりの窓口
※乗車には予約が必要です。
○おたずね：出雲の國・斐伊川サミット事務局／政策企画課　☎21-6612
○ＨＰアドレス
http://www.hiikawa-summit.info/